



今中 喜明

一、今後の教育のあり方について 二、住みたいと思う町づくりとは 三、総合計画について

今後の教育のあり方について

問 小中高一貫教育や、中高連携教育が制度として平成十六年度から始まったが、本年度の入試において定員割れしたこと現状について問う。

答 本町では、発達段階に応じた生きる力をそれぞれの学校で責任を持ってつけていくシステムとして小中高一貫教育を実践しており、小中高がつながることで、自分の将来をきちんと見据えている教育を目指している。しかしながら、本年三月の中学校の卒業生が百六十余名、一方小学校入学生が六十七名という現実があり、そういう意味では、能勢高校の連携型の中高一貫枠の七十名が確保できなくなるとのこと、それに高等学校の授業料無償化もあって、

経済的にも通学費用にまわせるといった選択肢が広がって、最終的には本人や保護者の選択に任せられている部分というのは、いたし方のない部分であると考えている。

住みたいと思う町づくりとは

問 若者が住みたいと思う町づくりとは!!逆に能勢の生活習慣や風土がへい害になっていませんか、基本的な考えを問う。

答 社会の成熟化により住みたいと思う町づくりは個々の考えによると思われます。社会資本であるインフラ整備は、当然多くの人が求める環境整備であると考えます。現在、人間関係が希薄になりつつある社会においては、能勢の地縁または生活習慣、中でも区制度などは本町の誇るべき地域

力であり、数々の協働事業は大きな成果として認識している。

総合計画について

問 社会資本の整備にしても、事業投資をする時期に本来するべきであり、現在、整備するタイミングを逃したつげが廻ってきているのではと思うが、次の総合計画にどのような組み込むつもりか。

答 第五次総合計画の目指すべき方向としては、能勢の地勢や風土を生かした将来を見据えた計画を審議会でもとめていただけのものと解している。尚、本町の都市計画は、乱開発を防止するための都市計画法であったので、今後、調整区域においても、平面だけの繁栄ではなく、中身の充実に取り組むべきと考えている。

一般質問



原田 健志

教育環境の改善について

問 緊急性を要する学校教育環境の整備に対する町の考えについて問う。

極小規模学級の改善は現在進行形の問題である。町が、本気で子ども達の教育環境の改善が必要であると考えるのなら、今すぐにでもまず東三校を一つにするなど出来る事から手を打つべきではないのか?

答 学校間連携により、課題改善のため工夫した取り組みをする事により対策を講じる。

問 再編整備をするとした場合の町の基本的考え方について問う。

遠距離の児童は現在の各小学校まで徒歩通学し、各小学校にて集合した後、新設学校にバス通学するという方法をとると聞いているが間違いはないか?
答 そういった事を基本にしている、再編と並行し各地域・PTA・学校関係者と打ち合わせして最終決定をする。

問 新設校を建てた場合、基本的な運営経費が現行8校全部で六、七千万円、新設校になると裏山整備、牧場運営費を除いても、一億六、七千万円になり、余分に今迄より一億円がかかる計算であると言われているが、経費の圧縮改善は進んでいるのか?

答 説明会の途中であり、二十七年に新設校が完成すれば、その運営経費は今より一億程度増え、その数字は減らせる方向では今のところ進んでおりません。

問 基本の運営経費が現在より負担増になって通学バスや牧場の運営は大丈夫か?

答 義務教育であるので通学バスは無料であり、財政の都合で費用が要るような事にはなりません。牧場の運営については、動物の種類・頭数は未定構想に掲げて実施をした以上は、途中でやめずに続けます。



問 幼保・小中高一貫の教育方針から、ほぼ増減なく十数年間も四、五十人の集団生活をする事で人間関係の固定化や、個々人物評価の固定化等、問題があると考えるが?
答 心配に配慮も必要と思う。教員は与えられた教育環境の下で、最高の教育効果を出す努力をする。現場の先生は利点を生かし、工夫し、しっかりとやってくれると思う。